



第124号
2024年2月5日発行

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する

地域の会

～11月定例会・12月定例会 概要～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして充分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行ふことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

年に一度の「情報共有会議」を開催しました。



情報共有会議は、国や立地自治体の代表者を招き、委員との意見交換や情報共有を目的として年に一度開催しています。11月10日、新型コロナが5類に移行して初めての情報共有会議を開催しました。エネルギーの安定供給、実効性のある避難計画、原子力災害時の避難道路の整備等々、多岐にわたる質問や意見、要望が出されました。

第245回定例会（情報共有会議） 柏崎市産業文化会館

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。
第248回定例会

日時：2024年2月7日（水）18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階研修室

第249回定例会

日時：2024年3月6日（水）18:30～20:30
場所：柏崎原子力広報センター 2階研修室

傍聴席は1F実験室に設けます。定員は20名程度です。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <https://www.tiikinokai.jp>

11月

2023年11月10日(金)

245回定例会

(情報共有会議)

出席者 16名(欠席3名) 場所 柏崎市産業文化会館(3階大ホール)
オブザーバー 内閣府、資源エネルギー庁、原子力規制庁、新潟県、柏崎市、
刈羽村、東京電力HD(株)

年に一度の「情報共有会議」を開催 ～委員・オブザーバーの所感～

【委員所感】

今年で発足から20年を迎える「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会」は、第245回定例会(情報共有会議)を開催した。これは7機関(国、県、市、村、事業者)のオブザーバー代表者を迎えて年に1度開催しているもの。委員は今思うことや伝えたいことなど、それぞれの所感、意見等を表明した。オブザーバー代表者からの回答の後、意見交換を行った。

福島第一原子力発電所の処理水について政府は、誰一人終わつたとは思つてない。高濃度の放射性物質で汚染された土



壌の処理が遅れている。デブリの処理もこの先何年かかるのか不安。しっかりとやつてもらいたい。

要配慮者の放射線防護施設への一時避難の計画、病院の入院患者・施設入所者の避難計画、学校・保育園の子どもたちの避難計画について教えてほしい。PAZの避難経由所への避難手段を具体的に策定していただきたい。

この2年間で物価が値上がりし電気、ガス代も値上がりした。今年6月の電気料金値上げ改定になりました。これは7機関(国、県、市、村、事業者)のオブザーバー代表者を迎えて年に1度開催しているもの。委員は今思うことや伝えたいことなど、それぞれの所感、意見等を表明した。オブザーバー代表者からの回答の後、意見交換を行った。



柏崎刈羽原子力発電所が全機停止してから11年が経ち、6・7号機の運転員で運転経験のある人

原子力発電所の立地地域にとって実効性の高い避難計画の立案は非常に大きな課題。国は責任の所在を明瞭にし、避難道路の整備、インフラへ

の財源措置を積極的に講じるよう要望する。エネルギーの安定供給は国の最重要課題の一つ。

東北電力の電気料金は関西電力の2.5倍、地元企業として再稼働による電気料金のメリットはない。どのような振興策で地元理解を進めるのか。電力料金の格差は何年続くのか。電力料金の地域格差を平均化する施策はあるか。

化石燃料の輸入は不安定で高価、メガソーラーや風力発電だけでは安定した電力が得られない。自国の安定したエネルギー稼働を望む。柏崎刈羽原子力発電所は重要な雇用の場であり、所内のコミュニケーションや情報発信などが改善され改革が進んでいると感じる。地域活動にも積極的に参りいただき感謝している。

が少なくなつた。訓練は行つてゐるが、運転経験がある、なしの差は非常に大きい。経験不足を原因とするヒューマンエラーの発生を心配している。再稼働を目指すであれば本気で取り組んでほしい。避難路の整備は原発再稼働の是非を問わず、柏崎刈羽地域の総意だと思つていて、この声に迅速に対応することが、国が前面に立つということではないか。原発立地地域の安全性向上に資する道路整備を早期に行つていただきたい。



原発の運転未経験の運転員の教育訓練はどのように実施されているか。運転技術の水準

を数値化し向上させることが必要。シミュレーションによる実験は、運転工場の運転員の技術維持はどのように実施されているか。運転技術の水準

を数値化し向上させることで、現場での熟練度を上げ、緊急時の冷静な判断と対応能力の維持、向上に全力を挙げてほしい。



東日本大震災・福島第一原発事故で原発の安全神話は崩壊したが、12年経ち新たな安全神話が形成されている。例えば、複合災害や（PAZと）PZの）同時避難についても国が指示してくれる、特重施設が機能しているからテロが起きてても大丈夫等々。原発再稼働で環境問題やエネルギーの問題も解決できるという神話も形成されている。日本は原発に拘るあまり省エネに踏み切れず、エネルギー構造のイノベーションを起こすこともできない。それらは日本の産業や科学技術全体に深刻な影響を及ぼしている。再び後悔することのないよう不都合な事実から逃げず向き合っている。

再稼働は私たちの意思に関わらず行われると思う。その際、プラントの電源喪失が無いように、プラント起動時のハウスボイラーラー運転に注意してほしい。

発電所のあるこの地域の農産品に対して、風評被害に当たるような心無い言葉を消費者から受けられることがある。放射線監視センターやモニタリングポストによる放射性物質の調査状況や調査結果に关心を持つていただき、農産物は安全だと県内外の方に広く知つていただき取組をぜひお願いしたい。

新潟県の3つの検証が終了し、知事は再稼働の是非に関する議論を進める。県民の意思を確認する方法として住民投票を実施する考えはあるか。今年のような猛暑日が続く中、原子力災害で屋内退避となり複合災害で大規模停電が起きた場合、早期の円滑な住民避難が必要になる。道路整備等の要望に対する内閣府の今後のスケジュールをお聞きしたい。

資源の乏しい日本はエネルギーの安定供給のために再生可能エネルギーなど新しい技術を取り入れながら、今後40年程度は原子力発電を取り入れていると考える。原子力発電所の新設やリプレースについて検討されているのかお聞きしたい。



規制庁、資源エネルギー庁には原子力の必要性、安全性の説明をもっと積極的に情報発信してほしい。内閣府には避難計画を中心とした避難道の整備、自治体でネットワークをつくる制度の改善等を含めてバックアップをお願いしたい。自治体には地域の指向性をしつかり

と決断し、行動で示してほしい。東京電力には施設を安全に運営し、地域貴重なエネルギー供給に責任をもつてほしい。

今後も極端な大雨や記録的な猛暑の発生リスクが予測される。食に関する物価の高騰、電気料金や燃料価格の高騰と私たちの生活にも大きな影響が出ている。世界的なエネルギー政策の指向性とGX（グリーン・トランスマーケット）実現に向けた基本方針。国が前面に立ち、立地地域及び電力の大消費地の方に、更なる理解活動と協力を得ることが重要だと考える。先人達がこの地に原子力発電所を誘致したのは、国のエネルギー政策への貢献と、地域の発展に寄与する事の2点だと聞いている。東京電力には、日本のエネルギー供給を担う原子力発電所で働くと自信をもって発電所運営に取り組んでほしい。

■ 原子力規制委員会の発足から11年。山中委員長



も認可してその後も運転する場合に対応できるよう改正された。

石燃料費用の抑制は、料金抑制の観点から大事。地域の実情を踏まえたきめ細かな支援に結び付くよう関係省庁と連携していく。高レベル放射性廃棄物の最終処分については、全国の自治体を行脚し調査地点を拡充する取組を行っている。バックエンド対策もしっかりと取り組んでいきたい。

する要望については、地域内閣府の緊急時避難円滑化事業を活用するとともに、関係省庁と共通認識のもと連携して取り組んでいきたい。

内閣府の緊急時避難円滑化事業を活用するとともに、関係省庁と共通認識のもと連携して取り組んでいきたい。

内閣府の緊急時避難円滑化事業を活用するとともに、関係省庁と共通認識のもと連携して取り組んでいきたい。

■ 資源エネルギー庁 山田資源エネルギー政策統括調整官



福島第一原子力発電所の廃炉は福島復興の大

前提であり、経産省の最重要課題である。賠償費用の7.9兆円の一部は電気料金に含まれている。日本のエネルギー自給率は10%強であり、多くを海外に依存している中で安定供給に万全を期すには原子力を含めあらゆる電源を活用することが重要。国民の理解を得られるよう国が前面に立ち、説明会、意見交換会、SNS動画等さまざまな方法を駆使して粘り強く積極的に取り組んでいきたい。また、力・ボン二ユートラル達成の観点から、再エネや原子力等の脱炭素電源に転換し、火力発電の依存を引き下げていこう。東日本と西日本の電気料金格差等は産業界に大きな懸念があると承知している。再稼働による化

■ 内閣府 松下政策統括官（原子力防災担当）



地域の会は20周年。活動を続けてこら

■ 新潟県 花角知事



息の長い訓練を実施した。今後とも、さまざまな想定や避難手段による訓練を実施する

オフサイトの原子力災害担当は平時から緊急時まで、災害計画・避難計画の策定と充実化の取組及び財政的支援を役割とする。ハド・ソフツ両面でしっかりと支援に努めたい。また、原子力総合防災訓練を始め、各種訓練や研修により原子力災害が発生した場合の対応要員や関係者の能力向上、住民の理解に努めている。原子力災害時に進めてきた3つの検証について取りまとめを行い、

規制委員会が認可する仕組みとなり、60年の時点ですべて再確認を行っている。また今年5月に原子炉等規制法が改正され、運転開始から30年後以降は10年ごとに継続して運転ができます。これまでの訓練がどのように改善されていく。避難の実施について対応していく。県が独自に進めてきた3つの検証について取りまとめを行い、

指針に定められており、県と関係市町村と情報共有、協議・連絡しながら、連携して対応していく。県が独自に進めてきた3つの検証について取りまとめを行い、

総括報告書を公表した。柏崎刈羽原発の再稼働の議論の進め方については、3

つの検証の取りまとめ、原子力規制委員会の追加検査を踏まえた判断、県の技術委員会における安全対策の確認、原子力災害発生時の避難の課題への取組などを材料に議論を進め、県民等の意見を聞き、その上で判断・結論を出して、その判断・結論について県民の意思を確認することを考えている。

■ 柏崎市
櫻井市長

1 義が目は 2 電所には 原子力発電の意

■刈羽村
品田村長

も、原子力発電所の意義や安全性だけではなくリスクも含めて正直に伝えることが重要と考えている。

今年も多種多様な意見を伺うことができた。でも良かったと思う。日本中全体が安価なエネルギーに手が届くようにしていくことはとても大事だと改めて感じた。国民の暮らしを守るために必要なのはエネルギーと食料、そして国防。日本の電化が進む中で、カーボンフリーのエネルギーを使って新しいステージに進まなければ

■ 東京電力
ホールディングス(株)
小早川代表執行役社長：

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is speaking into a silver microphone held in his right hand. The background is plain and light-colored.

地域の会
設立から
20年、発足
当の社契機が原

いけない。国民の暮らしを守るために必要な手段が原子力というエネルギーだと思つてゐる。福島事故以降、世界の潮流は脱原発だという話も聞くが、世界では70基の新しい原子力発電所が稼働している。刈羽村役場には陽圧装置が整備されてゐるが、次年度から稼働訓練を行おうと考えてゐる。いろいろな対策を少しでも進化させていくことが大事だと思つてゐる。



なく、安全性への取組を進めていくことが何より重要と考えている。トラブルや課題に対し継続的に改善する仕組みを定着させることで、地域において協力企業と一緒に業務品質を高めていくことを実現していきたい。

かつ正確な対外発信に努め、訓練を通じて避難の実効性が高められるよう要配慮者の方の搬送訓練など最大限取り組んでいる。4月には東京電力柏崎火力発電所建設計画を公表。非常食や水・資機材を常備して一般災害時に地域の皆様から活用いたたくことも考えておる。福島第一原子力発電所の事故を忘れることがない。

規制庁

過去に事故や地
震を受けた発電

高経年化した原
子炉の安全規制に關
する法改正について、
大きな地震や事故の
あつた原発はどういう
点をよく見るのか。

Q

規制庁 長い間止まって
いることで技能
のある人が引退すること
もあるし能力が下がること
もある。どうやって能力
を高めていくかというの
は事業者の役割であり、そ
の事業者の取組を確認し
ていくのが我々の立場だ
と思っている。適格性評価
の検査の中身ではない。

Q

柏崎刈羽原子力発電所の運転員260名の内、運転未経験者は90名、35%になる。規制庁はこれをどのように捉えているか。また運転員の技術レベルは適格性評価に影響するか。

【主な質疑応答・意見】

所は、その部分も含めて劣化がないかを確認していく。全サイト共通で確認する部分もあるが、各サイトの履歴により劣化が生じている部分はないか、追加して確認することは当然ある。

うな事態が生じたことを理解いただきたい。



10月4日の地域の会で県に、原子力総合防災訓練について教えてほしいと質問したところ、報道発表されてること以外は一切答えられないとの返答だつた。翌日届いた「広報かしわざき」には詳細が載っていた。これはどういうことか。

内閣府

会で県に、原子力総合防災訓練について教えてほしいと質問したところ、報道発表されてること以外は一切答えられないとの返答だつた。翌日届いた「広報かしわざき」には詳細が載っていた。これはどういうことか。

意見 運転員の仕事は計器について、国が電気自動車を推進しているのであれば避難の際に電源車を用意するなどの対策も検討していただきたい。



原子力総合防災訓練の中身は

避難計画に関するものもあるし、県がやることもあるから責任はそれぞれ応分、といはう理解でよいか。

意見

再生エネルギー、洋上風力の導入等、電源構成は移行期にあると思

うが、20年後30年後の電

気が足りるのかを心配

している。原子力発電所の新設に関して議論を始めたないといけないのではなかいか。そういうことも含めて広く情報発信をしていただきたい。

意見 本當の原発事故が起きた時に市長や村長が責任を負って判断するしか他ないようなことが起きるのでないか。(PAZとUPZの)同時避難であれば尚そなるのではないかと危惧している。

内閣府

責任論の話になり軽重で論じることはできないが、国には

内閣府

原子力防災の仕組み等について住民、子どもへの理解促進は重要であり、文科省

は、総理大臣が原子力緊急事態宣言を読み上げる様々であり、国で行う訓練や、各省庁がそれぞれの想定の下で対応を検討する訓練などもある。一方、現地で住民に参加していただくなっている。全体の日程について国の調整が1週間でかかり、このよ

ては市町村がやることもあるし、国がやることもあるから責任はそれぞれ応分、といはう理解でよいか。

内閣府

避難計画に関するものもあるし、県がやることもあるから責任はそれぞれ応分、といはう理解でよいか。

再生エネルギー、洋上風力の導入等、電源構成は移行期にあると思うが、20年後30年後の電気が足りるのかを心配している。原子力発電所の新設に関して議論を始めたないといけないのとも含めて広く情報発信をしていただきたい。

地域防災計画・避難計画は法律の監視だけではなく、定期検査の際にポンプの隔離作業も必要になる。配管計装線図や手順書を見なくともできるやり方をきちんと伝えていただきたい。

内閣府

工エネルギーの現状や今後の展望、放射線の知識などを教育に組み込むことは教えることができる。内閣府が統括し横断的に協議に協力してもらうことは可能か。

資源エネルギー庁

本年2月にGXに

防災基本計画及び原子力災害対策指針に基づき自治体が避難計画を策定するが、国が計画の策定すから前面に出る体制が取れないか検討いただきたい。

工エネルギーの現状や今後の展望、放射線の知識などを教育に組み込むことは教えることができる。内閣府が統括し横断的に協議に協力してもらうことは可能か。

資源エネルギー庁

第7次エネルギー基本計画を策定する中で新設、リブレー

スの議論はされているか。内閣府は市町村それぞれの責任がある。

資源エネルギー庁

いきたい。



防災基本計画及び原子力災害対策指針に基づき自治体が避難計画を策定するが、国が計画の策定すから前面に出る体制が取れないか検討いただきたい。

いきたい。

12月

2023年12月6日(水)

246回定例会

出席者 16名(欠席3名) 場所 柏崎原子力広報センター(研修室)
オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村、原子力規制事務所(原子力規制庁)、
地域担当官事務所(資源エネルギー庁)、東京電力HD(株)

情報共有会議を終えて(フリートーク)

Q

【前回定例会以降の動きについて】

半は前回定例会以降の動きについて、各オブザーバーから説明を受けて質疑応答を行った。後半では、11月に開催された「情報共有会議」を終えて、フリートークを行つた。委員やオブザーバーは情報共有会議についての感想、意見などを述べた。



規制庁は核物質防護についての追加検査で、東京電力は適切に対応していることを確認したというが、これまでの不祥事やトラブルの内容と対応を思い

東京電力

当社の論文は、古安田層の火山灰や堆積の年代等を明らかにする目的で整理した。発電所の安全性は24万年前の阿多鳥浜テフラが動いている

柏崎平野周辺の地形・地質の成り立ちについて専門学術誌に論文が掲載されなかつたのは、安全性確認において重視している古安田層についてではなく、飯縄上樽テフラのデータ不足が理由であるので、東電のこれまでの評価に影響はない理解でよいか。

Q

規制庁
追加検査の報告書、適格性確認の報告書について、この時点での速報を説明させていた。今後、委員長等の現地調査もあり、事実関係の確認を東京電力に対して行う。報告書が替わることもある。詳細は改めて説明したい。

起こすと納得がいかない。今後詳しい説明をお願いしたい。

規制庁

かいないかで判断している。この点について指摘があったわけではないことから柏崎刈羽原子力発電所の断層活動性評価に影響はないと言っている。

【情報共有会議を終えて】

国や東京電力から丁寧な回答をいただいた。電気料金の設定の仕方に認識を新たにした。算定方法などを今後教えていただきたい。

避難計画立案の責任の所在について、内閣府からこのように決まっているという回答があつたが、それでは改善しないことがあるのではないか。志があつて改善しないことがあるので、東電のこれまでの評価に影響はない理解でよいか。

仕組みが悪いのであればそれを改善していただきたい。この会の議論で実益となるものは改善を重ねること。原子力発電所の議論の環境をより良くしていきたい。

東京電力がやることが全部電気料金に転嫁され、青天井では生活者が困るエネルギー・ミックスを語るのであれば官民ともに汗をかき、高レベル廃棄物などの諸問題を解決すべき。国が前面に立つというならば、事業者に丸投げするのではなく積極的に関わって私たちの生活

内に縦割りの体制では対応できない多岐にわたる問題が出てきていると感じます。地元の声をしっかりと聴いてもらいたい有意義だったが、回答はいつも同じに感じる。中央の皆さんとの「こちらに任せておけ」という力強い声を聴きたかった。

避難路の整備について内閣府からは、関係者との調整が付けば来年度からと示していただき良かった。

東京電力から具体的な説明をいただき安心した。未経験運転者についての内容をニュースアトムで掲載していた。今後もソフト面の情報を提供してもうまい。この先、再稼働したなら、地域の人たちの生活と生命を守つて業務を行うという気概を持ち業務にあたつてほしい。

東京電力がやることが全部電気料金に転嫁され、青天井では生活者が困るエネルギー・ミックスを語るのであれば官民ともに汗をかき、高レベル廃棄物などの諸問題を解決すべき。国が前面に立つとい

を守つていただきたい。

東京電力の「古安田層」という仮称は、安田層より古いと印象付けるための

印象操作ではなじか、
堂々と学術上の名前で影
響はないとした方がいい
のではないか。また、県の
今回の原子力防災訓練に
関する説明の姿勢は不誠

実で残念だつた。

情報共有会議への一般傍聴者が少なく関心が薄い。地域の人たちの関心を高めていくことが重要。いろいろな機関や行政がSNS等で仕事や活動などを発信しても良いのではないか。

原発に何かあつても交流電源さえあれば安全停止ができる。通常停止に持つていければ福島第一原発事故のようなことは起きないはず。東電は引き続き改善を続けていけば、良い発電所になると思う。

放射線監視業務について所感と意見を述べた。地域の農産物は放射能検査を行っているが、それが地域住民にあまり伝わっていない。調査状況や結果に関心が集まる取組と、それが消費者に伝わる仕組みづくりをお願いしたい。

普段地域の会で議論され

てある内容を所属団体の

人たちに伝えることがで
きた。会場で体感しても
らえたことが一番の収穫

温暖化が進み世界的なヤロエミッションの動きの中で、原子力発電に貢献度が本当にあるというなら稼働させるべきと考えてたんだ。

おまえが限らぬ三時間の
いる。

各委員が限られた時間の中で、自分の思いをまとめた。そこで、自分たちの意見をまとめて、それをもとに議論する努力をして会議に臨んでいた。いろいろな立場の人々が発する苦言、提言、アイデアをオブザーバーの方々が政策にどう反映するかにかかっている。創立から20年、地域の会は正常に機能していると感じた。

〔オブザーバーの感想〕

規制庁

毎回貴重な意見



新潟県

潟縣
様委

員の皆様の多
く活発な意見

10

交換を拝聴した。避難計画や避難路の整備についてご意見、ご質問を多くいただいた。県としては引き続き国、市町村、関係機関と連携し避難計画の実効性向上に向けた不斷の取組を行う。今後も県民の安全と安心を

起きた場合は原因を分析して再発を防止し、大きな遅延に繋げないよう考えて改善する仕組みが重要。福島第一原発事故の反省を忘ることなく、業務の質を高める努力をしていく。

資源エネルギー庁

わが
なじめ

20

柏崎市 委員の皆様の意見、課題をお聞きし、共有できることは非常に良かった。その場で終わりではなく、課題や疑問に対し継続して整理、検討していく。原子力防災に関する知識の啓発を積極的に進め市民の安心、安全に繋がるよう進めていきたい。

柏崎市

委員の皆様の意見、課題をお聞き

A portrait of a woman with dark hair and glasses, wearing a white face mask and a dark jacket. She is holding a black microphone and appears to be speaking or presenting.

1月1日夕刻、突然テレビから緊急地震速報続いてドーンと激しい揺れに襲われ、続いて津波情報が流れた。地区役員宛に防災無線で呼びかけもあったので、「三セんに行つたら駐車場は既に車でいっぱい、そして「トイレを貸して下さい」と日々に切実な訴えをされておりました。

地震発生は午後4時10分、柏崎で津波が観測されたのが4時29分だ! 東京電力はこの時間内で何が出来ただろうか? 今回のような連休中や休み日もあれば夜間もある石川県珠洲市では発生から1分で津波が到達し、逃げることもままならなかつたと報道されており、もしもこれが佐渡沖だったらどうだったのか、とても不安に感じたのは私だけでしょうか?

原子力災害時の避難計画見直しは、その都度図られておりますが指定の避難先も遠く、高齢化率の高い当地でも自家用車の避難が主流となりますが、特に女性や妊産婦の場合、トイレの問題をどう解決するか重要な課題と考える一つの切掛けになりました。(須田委員)